

伝統製品「雪駄」に新しいエッセンスを加え国内産業の灯を守る

株式会社 サカガワ 奈良県北葛城郡上牧町

和履き製造は奈良県の地場産業の一つで、三郷町および上牧町はその日本有数の集積地とされる。昨年創業 50 周年を迎えた履物製造卸売業の株式会社サカガワ（阪川隆信社長）は、創業当初より取り扱ってきた伝統的な雪駄の改良に 2008 年から着手。そして誕生した新しい雪駄ブランド『Re：休』（りきゅう）が、産地技術を活かした地域資源価値向上が期待されるとして 2009 年 7 月に経済産業省の「中小企業地域資源活用事業」の認定を受け、2009 年度の「第 3 回奈良県ビジネス大賞」優秀賞も受賞した。

近年の和物ブームに伴って伝統的なモチーフを取り入れたファッションや雑貨などに注目が集まり、雪駄に対しても新たなニーズが生まれつつあるなか、『Re：休』の開発は、「鼻緒が痛い」「小指がはみ出る」「長時間履くと疲れる」といった従来の雪駄に対する不満の声をいかにして解消するかということから始まった。

足裏に接する天板部分の中央に取り付けるのが一般的だった鼻緒の位置を少し内側に寄せて指がはみ出ないようにしたり、鼻緒の芯を従来の綿紙からウレタン素材に変更して指の痛みを軽減。さらに天板部分の 3 か所にクッションを入れることで疲れにくく脱げにくい形状にするなど、伝統的な雪駄に新しい機能性をプラスし改善していった。

鼻緒の取り付け位置



鼻緒の取り付け位置や素材を変更して快適性をアップ

鼻緒の断面図



変更後 ウレタン

変更前 綿紙

一方素材にもこだわり、国産自然素材を取り扱う様々な生産者とコラボレート。農薬や化学肥料を全く使わないオーガニックコットンから織りあげた和紡布を柿渋染した生地、岡山県産のい草・デニ

ム、吉野檜などを天板に使用したり、奈良県宇陀市産の印伝（鹿革に漆で柄付けしたもの）を鼻緒に用いるなど、国産の選りすぐりの素材を組み合わせ雪駄を作り上げる。さらに約 50 にも分かれる製造工程は、すべて地元の熟練職人が手作業で行うという。



柿渋染した和紡布に印伝の鼻緒を組み合わせたタイプ（上）



カジュアルな服装にも合わせやすいデザインを採用（右）

こうして素材も製造もすべて純国産にこだわるのは、安価な中国製品との差別化によって際限なき価格競争からの脱却を図る意図もあるが、「伝統技術を持った職人が健在なうちに次代へその技術を受け継ぎ、地場産業全体を持続的に発展させたい」という阪川社長の思い入れが大きい。

「奈良の伝統的な地場産業であるということは、こだわりや本物を求める時代にマッチして、今やプラスのイメージ」とも語る阪川社長。全国のマルイ、ロフト、東急ハンズでの販売や各地の展示会を通じて、若者・女性・外国人などからの確かな手ごたえをつかんでおり、今後は海外への展開も視野に入れているという。

消費市場の縮小や安価な中国製品の氾濫を座視するだけでなく、伝統製品に新しいエッセンスを加えて付加価値を高め、国内産業の灯を消さないという強い信念を持ってビジネスを展開する同社の取り組みは、伝統産業の今後の持続的発展に向けて多くの示唆を含んでいる。

（吉村 謙一）

株式会社 サカガワ

〒639-0214 奈良県北葛城郡上牧町上牧 3439-16

TEL：0745-76-8835 FAX：0745-77-6588

URL：http://www.kabusaka.co.jp/

http://kabusaka-shop.jp/